

～ 傷・打撲に気を付け丁寧な収穫作業を！ ～

1 収穫作業のポイント

- 収穫は、茎葉枯凋後10日ほどたって、表皮が硬くなっていることを確認してから開始しましょう。ただし、土壌中に長期間放置すると黒あざ病（菌核付着）の発生が多くなるおそれがありますので、表皮の硬化後はできるだけ速やかに収穫しましょう。
- 低温時（10℃以下）の収穫は、傷や打撲が発生しやすくなります。傷や打撲を防ぐため、日中の温度上昇を待って作業を開始するとともに、曇天時や極端な低温時には作業を見合わせましょう。
- 本年は、7月の高温・多雨により軟腐病の発生が多い傾向ですので、腐敗した塊茎が製品に混入しないよう、作業速度を調整しながら収穫を行なって下さい。また、防除通路や滞水した箇所ではコンテナを分ける等、腐敗リスクを抑えるようにしましょう。
- 掘り残しによる翌年の野良生えはウイルス病や疫病などの伝染源となります。できるだけ掘り残しのないように努めましょう。

2 風乾

- 収穫後、高温時の直射日光下に放置すると小さな傷口から腐敗や変色が急速に進むため、直ちに風通しの良い暗所で品温を下げ、風乾を行いましょう。
- 滞水した場合や、収穫時に腐敗が多かった場合は、特に十分な風乾を行い、貯蔵中や出荷後の腐敗を防止しましょう。

農薬の安全使用について

- 農薬散布に当たり、近接する作物へ飛散しないように十分注意しましょう！
- 農薬は必ずラベルを読み、使用量・時期・回数を確認し適正に使用しましょう！

農作業安全

- 収穫等、作業が忙しくなる時期ですが、休憩をとりながらなるべく無理のない作業を行なうようにして下さい。
- 作業機を始動する際は、声かけやクラクション等により、周囲への安全確認を行いましょう。